

1996 年の道東及び北方四島の太平洋側並びに
オホーツク海側でのスルメイカの分布と移動
(要旨)

**Distribution and Migration of *Todarodes pacificus* in Waters off
the Pacific Side and Okhotsk Sea Side of the Eastern Hokkaido
and the Southern Kuril Islands in 1996**

中村好和・森 賢
Yoshikazu Nakamura and Ken Mori

北海道区水産研究所

本研究は、1996 年に実施した日ロ共同太平洋イカ類資源調査結果に基づいている。この調査は、道東及び北方四島の沿岸から沖合の太平洋並びにオホーツク海海域におけるスルメイカ・アカイカ等のイカ類の分布状態、成長・成熟状態、移動、分布環境に関する資料を収集し、これら資源の評価に資することを目的として行われた。

1996 年 8 月 22 日～9 月 12 日に、北水研所属調査船探海丸(168 トン)により道東及び北方四島太平洋側並びにオホーツク海側の沿岸から沖合にかけて(ロシア 200 カイリ水域を含む)、自動いか釣り機(5 台)による漁獲調査、海洋観測、標識放流調査等を実施した。漁獲調査は一晩につき 2 地点、合計 36 地点で行った。標識放流調査では、黄色アンカータグを鰓基部に装着し、6 地点(太平洋側:2 地点、オホーツク海側:4 地点)で合計 3,074 尾放流した。

スルメイカはおもに沿岸よりの地点で漁獲され、道東の浜中沖、色丹島付近、国後水道北側の 2 地点では CPUE(釣り機 1 台 1 時間当たり漁獲尾

数)が 50 以上と高かった。また CPUE が 40 前後の地点も太平洋側・オホーツク海側の両方でみられた。

太平洋側のスルメイカ外套背長組成は、雌雄とも単峰形を示し、外套背長モードの雌雄差は無く、ともに 22cm であった。一方、オホーツク海側の外套背長組成は、雌雄とも明瞭な単峰形を示さず、外套背長モードは雄で 19cm、雌で 19・20cm であり、太平洋側と比べて 2~3cm 小さかった。

放流したスルメイカの再捕尾数は 35 尾、再捕率は 1.1%である。太平洋側で放流された個体は、10~11 月に浦河沿岸、渡島半島東岸、羅臼沿岸、オホーツク海枝幸沿岸で、また翌年 1 月には長崎県五島列島有川沿岸で、それぞれ再捕された。オホーツク海側で放流された個体は、10~12 月に知床半島～オホーツク海沿岸、道西日本海、日本海沖合で、それぞれ再捕された。太平洋側での再捕報告は無い。

本研究の詳細は、北水研研究報告に投稿予定。